

氏名：森下 福史

実施国：フィリピン/カンボジア

調査研究

活動名称 WHO 西太平洋地域における結核対策アプローチ (Active Case Finding)

実施期間 2011 年 9 月 26 日 ~ 2012 月 1 月 26 日

(1) 活動内容

この度、私は世界保健機関西太平洋地域事務局の結核・ハンセン病対策課にインターンとして配属となり、協力隊を育てる会からの支援を受けて、主に以下の2つの結核関連の調査研究を行った。

1. 移民結核対策の政策調査

移民の結核は結核低蔓延国・中蔓延国の保健システムに大きな影響を与えていることが昨今の調査研究で分かっている。そんな中、WHO 西太平洋地域の国々は移民の結核検査・治療に異なる政策・アプローチを採用しているがその差異は国家間レベルで共有されていない。そのような背景から、西太平洋地域の8カ国にアンケートの記入を依頼し政策調査を行った。

2. カンボジア～Active Case Finding～対費用効果研究

カンボジア保健省が 2005 年からコミュニティベースで行っている結核患者特定のアプローチ (Active Case Finding; ACF) が従来のアプローチ (Passive Case Finding; PCF) と比べて、どのような効果・付加価値があるのか、2009/2010 年の患者登録簿と検査登録簿からデータを得て、費用対効果の要素も取り入れて分析を行った。



移民の結核対策会議の様子



プレゼンの様子

(2) 活動を振り返ってうまくいった点、反省点

上司であった WHO 医官の的確な指導の下、調査研究を進めたため全体を通して活動は順調に進み、期待されていた成果をあげることができた。

移民結核検査の政策調査では、各国保健省の協力もあり低・中蔓延国に共通する移民結核における課題を確認することができた。また、11 月には 8 カ国/地域を招集して開催した国際会議でその調査結果を発表し、政策的な議論を通して WHO がどのような分野で加盟国を支援できるか、一定の方向性を示すに至った。通常、研究機関等に所属する個人が同様のアンケート調査を企画しても調査参加への協力を得て、アンケートの回収をスムーズに行うことは非常に難しい。その点、今回調査が順調に進んだのには、WHO から正式な要請という形で国際機関の立場をうまく活用した手法であったことが理由として考えられる。

カンボジアの ACF 研究は 11 月の後半から着手し、プロポーザルの作成に始まり、データ収集、データ分析、結果の執筆までを、インターンとしての時間的な制約がある中、無事に期間内に終わらすことができた。さらに研究結果はその後、WHO 関係者に数回に渡って編集を入れて頂き、3 月上旬に BMC Public Health というイギリスの学術雑誌に提出することができた。編集委員会からの許可が下りれば、数ヶ月以内にウェブ上で公開（出版）される予定である。この点に関しても、上司をはじめとする WHO 内の専門家の献身的なサポートとアドバイスがあってこそ達成できた成果である。

(3) 活動を通じて、国際貢献、国際交流ができたと思う点

国際交流

WHO 内にはもちろん、フィリピン人をはじめとする多くの外国人が働いている。配属となった結核対策課は日本人、オランダ人、アメリカ人、フィリピン人で構成されており、定例会議や日常業務の全てが小さな国際交流の積み重ねであったと言える。スタッフの国籍やバックグラウンドの差異による考え方・働き方の違いも垣間みることができ、そこから学ぶことも多かったと感じる。また、カンボジア出張の際には同年代の現地人アシスタントを雇って親交を深めたため、業務以外の場面でも文化交流を楽しむことができた。

国際貢献

本調査研究の主たる目的は科学的・学術的な国際貢献である。移民結核検査の政策調査は前述の通り、国際会議の政策議論で重要な役割を担うことができた。さらに今後、WHO 西太平洋地域事務局はこの結果を足掛かりにして、移民の結核対策に関する「Regional Framework」（WHO 地域レベルにおける移民の結核対策枠組み文書）を作成する方向で話が進んでいる。

カンボジアの ACF 研究結果は学術雑誌への投稿だけでなく、スイス/ジュネーブにある WHO 本部（ACF ガイドライン制作チーム）にも送られた。今後、ACF ガイドラインの作成のための学術的証拠として扱われる予定である。

(4) 今回の事業をふまえ今後の計画

今回の WHO での研究調査の経験は、単に国際的な研究経験を積んだだけでなく、WHO 内に人的ネットワークも構築することができ、さらに今後につながるチャンスを得ることができた。職場での日々の仕事ぶり、研究成果、結核対策にかける情熱等を評価してもらい、4 月からは配属されていた WHO 西太平洋地域事務局、結核対策課の短期コンサルタントとして、今回の調査研究の延長線上にある業務に関わっていく予定である。現時点では半年ほどのコンサルタント契約を予定しているが、同時並行で当初から予定していた JPO 試験も受験することになっている。